

2. 阿賀野市の産業経済の現状

(1) 産業・就業

産業別就業者比率は、平成12～17年にかけて、第2次産業が減少し第3次産業が増加しており、平成17年では、第1次産業が11.5%、第2次産業が36.7%、第3次産業が51.3%となっています。

この比率を近隣市町と比較すると、第1次産業は阿賀町に次いで高く、第2次産業は五泉市に次いで高い状況です。

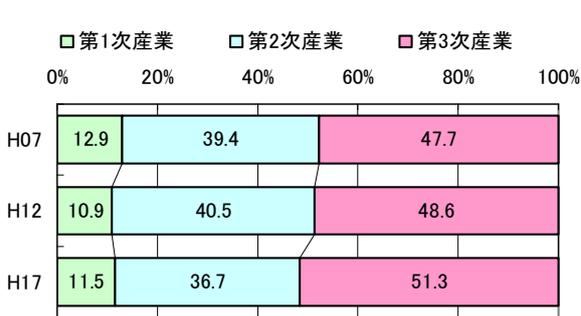


図 2-1-1 産業別就業人口比率の推移

資料：国勢調査

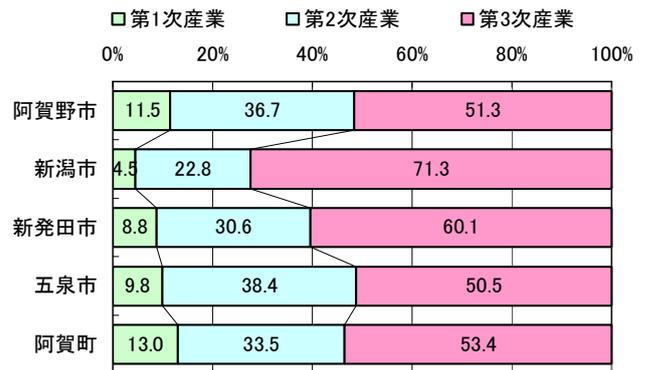


図 2-1-2 産業別就業人口の比較

資料：国勢調査

表 2-1-1 産業別事業所数推移

	実数(件)		比率(%)		増減数
	H08	H18	H08	H18	
農林漁業	19	18	0.7	0.8	-1
鉱業	39	22	1.5	0.9	-17
建設業	508	480	19.9	20.5	-28
製造業	236	185	9.2	7.9	-51
電気・ガス・熱供給・水道業	6	4	0.2	0.2	-2
情報通信業	2	4	0.1	0.2	2
運輸業	31	42	1.2	1.8	11
卸売・小売業	832	659	32.6	28.1	-173
金融・保険業	18	13	0.7	0.6	-5
不動産業	38	43	1.5	1.8	5
飲食店、宿泊業	191	202	7.5	8.6	11
医療、福祉	75	118	2.9	5.0	43
教育、学習支援業	93	97	3.6	4.1	4
複合サービス事業	21	23	0.8	1.0	2
サービス業	415	413	16.2	17.6	-2
公務(他に分類されないもの)	31	20	1.2	0.9	-11
計	2,555	2,343	100.0	100.0	-212

資料：事業所統計調査

表 2-1-2 産業別従業者数推移

	実数(人)		比率(%)		増減数
	H08	H18	H08	H18	
農林漁業	279	529	1.4	3.0	250
鉱業	261	148	1.3	0.8	-113
建設業	3,711	3,265	18.7	18.4	-446
製造業	5,319	4,427	26.8	25.0	-892
電気・ガス・熱供給・水道業	58	46	0.3	0.3	-12
情報通信業	3	24	0.0	0.1	21
運輸業	426	524	2.1	3.0	98
卸売・小売業	3,816	2,953	19.2	16.7	-863
金融・保険業	250	171	1.3	1.0	-79
不動産業	74	67	0.4	0.4	-7
飲食店、宿泊業	882	1,020	4.4	5.8	138
医療、福祉	1,236	1,437	6.2	8.1	201
教育、学習支援業	733	732	3.7	4.1	-1
複合サービス事業	386	308	1.9	1.7	-78
サービス業	1,787	1,580	9.0	8.9	-207
公務(他に分類されないもの)	629	484	3.2	2.7	-145
計	19,850	17,715	100.0	100.0	-2,135

資料：事業所統計調査

阿賀野市の事業所数は、平成8年の2,555件から平成18年現在では2,343件と200件以上減少しています。業種別事業所数の推移をみると、卸売・小売業が173件減少と最も多く、次いで製造業が51件減少、建設業が28件減少と続きます。一方で、医療・福祉が43件増加、運輸業、飲食店・宿泊業がそれぞれ11件増加しています。

従業者数は、阿賀野市全体で平成8年の19,850人から平成18年現在の17,715人へと2,000人以上の減少がみられ、業種別従業者数の推移では、製造業が892人の減少で最も多く、次いで卸売・小売業が863人減少、建設業が446人減少となってい

ます。一方で、農林漁業が 250 人増加、医療・福祉が 201 人増加、飲食店・宿泊業が 138 人増加となっています。

産業別事業所数比率を近隣市町と比較すると、建設業（20.5%）、飲食店・宿泊業（8.6%）が他市町を上回っています。一方、サービス業（17.6%）、不動産業（1.8%）、金融・保険業（0.6%）は低い比率となっています。

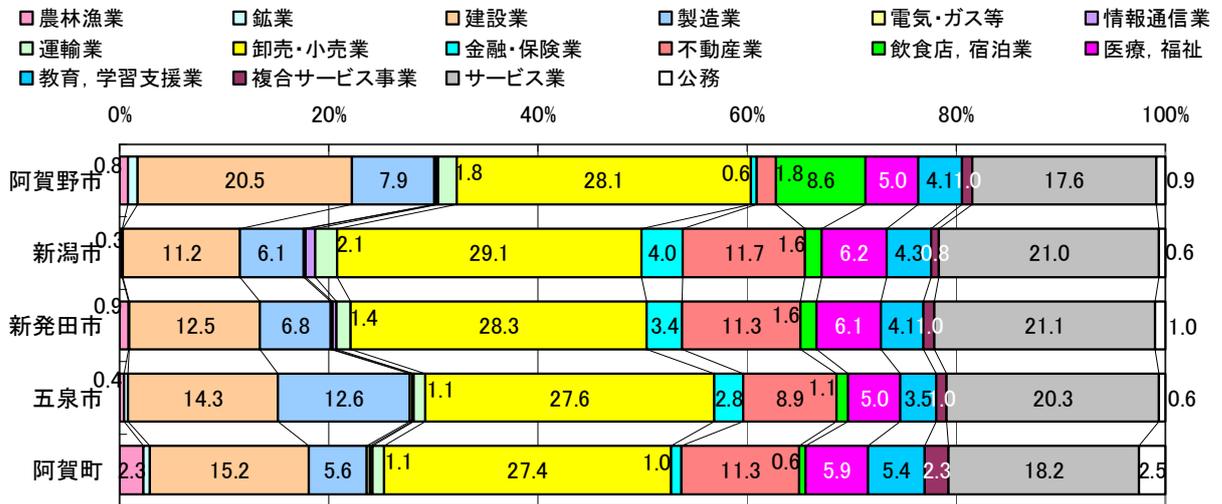


図 2-1-3 産業別事業所数比率（平成 18 年）

資料：事業所統計調査

産業別従業者数比率を近隣市町と比較すると、建設業（18.4%）、飲食店・宿泊業（5.8%）が他市町を上回っているほか、製造業（25.0%）も比較的高い比率となっています。一方で、サービス業（8.9%）、医療・福祉（8.1%）は低い状況です。

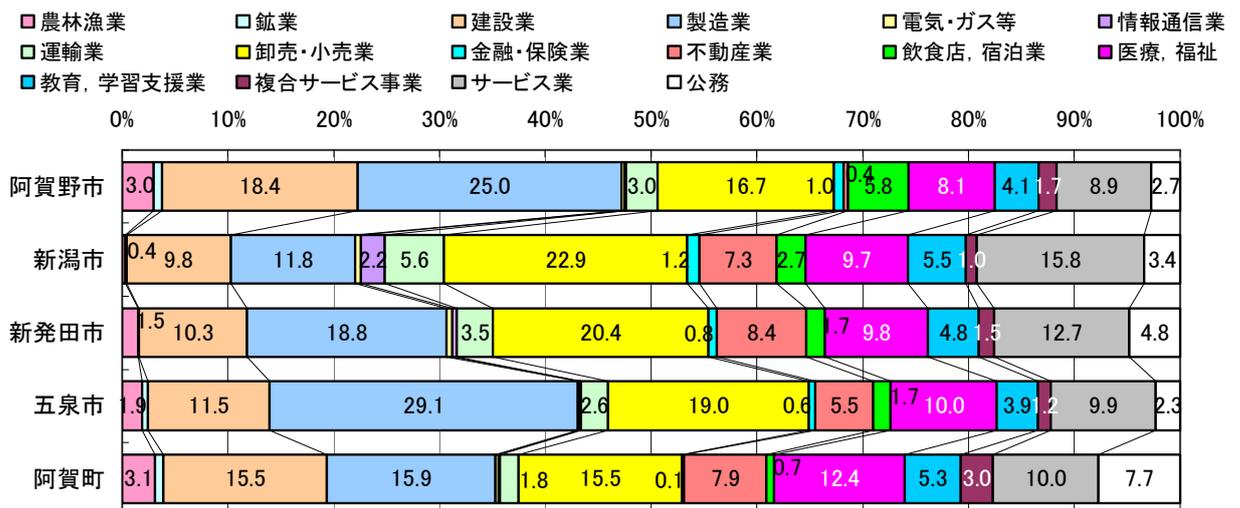


図 2-1-4 産業別従業者数比率（平成 18 年）

資料：事業所統計調査

(2) 農業

阿賀野市の農家数は減少しており、平成22年現在、20年前の平成2年と比べて約3分の2に相当する2,798戸となっています。特に、第2種兼業農家数が1,000戸以上少ない1,769戸へと大きく減少しているのが特徴です。

経営耕地面積は、平成17年まで減少傾向であったものの、平成22年では増加に転じ6,108haとなっています。耕地面積のうち水田として利用されている面積が約95%を占めています。

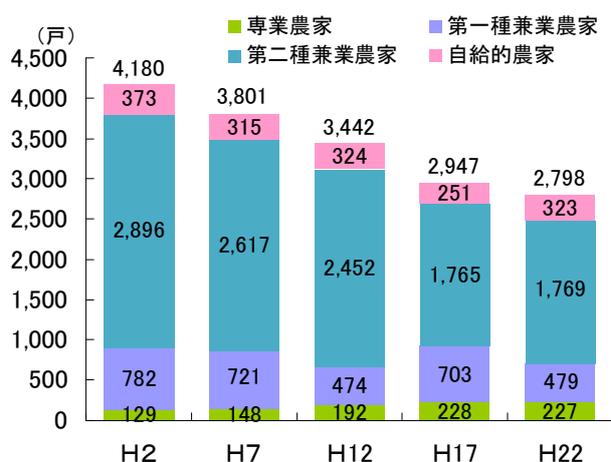


図 2-2-1 専兼別農家数の推移

資料：農林業センサス

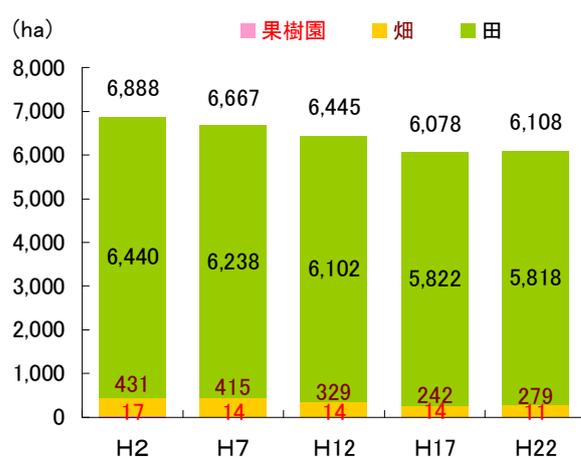


図 2-2-2 経営耕地面積の推移

資料：農林業センサス

平成2～22年の20年間の総農家数・経営耕地面積の増減率を近隣市町と比較すると、阿賀野市の総農家数の減少率は33.1%で5市町中3番目に高く、また経営耕地面積は12.3%で阿賀町(32.1%)に次いで高い状況です。

農業従事者の高齢化率(60歳以上)をみると、阿賀野市は80.5%と阿賀町(91.9%)に次いで高い状況となっています。



図 2-2-3 市町別農家数・耕地面積の増減率 (H2~22年)

資料：農林業センサス

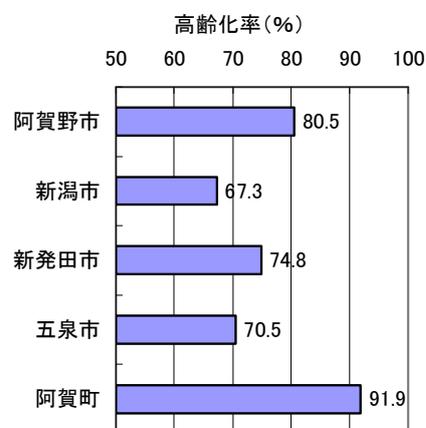


図 2-2-4 市町別農業従事者の高齢化率 (60歳以上)

資料：農林業センサス

(3) 工業

阿賀野市の工業従業者数及び事業所数はこれまで減少傾向で推移しています。ただし、従業者数については、平成 17 年 (4,423 人) 以降は僅かに増加に転じています。

製造品出荷額等はこれまで増加傾向で推移していたものの、平成 12 年以降はその傾向が鈍化し、横ばいとなっています。平成 20 年現在、従業者数は 4,464 人、事業所数は 190 件、製造品出荷額等は 949 億 4,900 万円となっています。

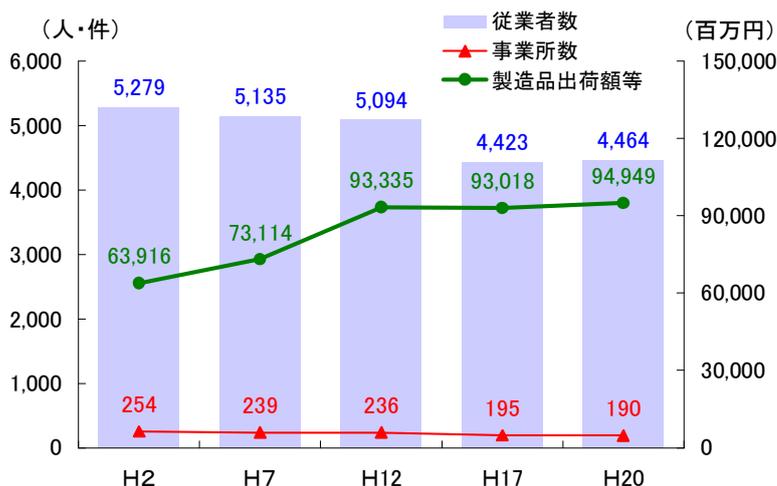


図 2-3-1 工業指標の推移

資料：工業統計調査

産業中分類別で見ると、「食料品」の出荷額等が 302 億 2,700 万円でもっと大きく、総額の約 3 割を占めています。次いで「家具・装備品」、「窯業・土石製品」、「電子部品」が 50～70 億円程度となっています。

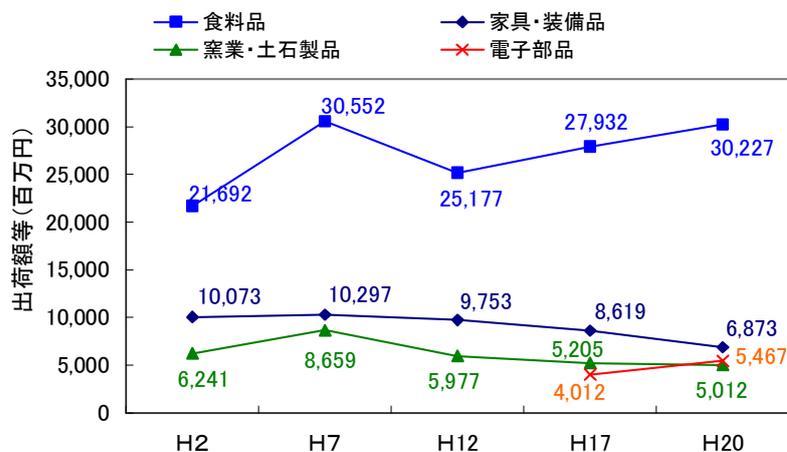


図 2-3-2 産業中分類別出荷額等の推移(主要品目)

資料：工業統計調査

(4) 商業

【卸売業】

阿賀野市の卸売業従業者数、事業所数はこれまで増加・減少を繰り返して推移しています。平成19年現在、従業者数は386人、事業所数は63件となっています。

年間販売額は、平成14年まで減少傾向でしたが、それ以降は増加傾向に転じており、平成19年現在の販売額は146億2,700万円となっています。



図 2-4-1 商業（卸売業）指標の推移

資料：商業統計調査

平成3～19年の卸売業事業所数・従業者数・年間販売額の増減率を近隣市町と比較すると、阿賀野市の事業所数(-8.7%)、従業者数(+21.4%)、年間販売額(+52.3%)は、ともに4市町中最も高い状況となっています。

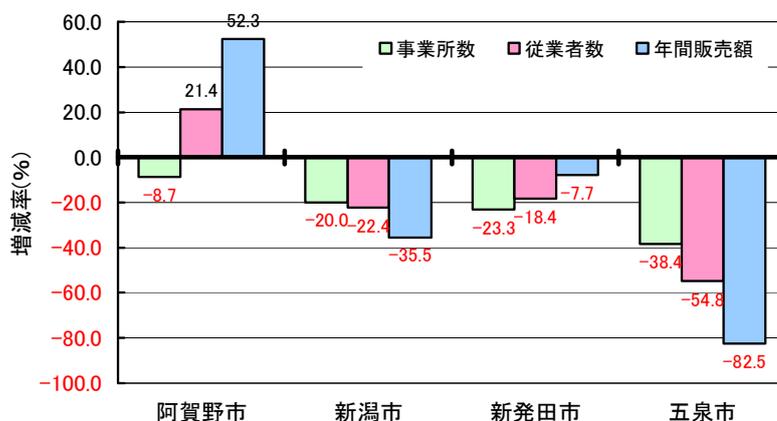


図 2-4-2 市町別商業（卸売業）指標の増減率 (H3～19年)

資料：商業統計調査

※近隣市町のうち阿賀町については、公表されていないため対象から除外した。

【小売業】

阿賀野市の小売業従業者数は平成14年まで増加傾向であったものの、それ以降は減少傾向に転じています。事業所数は、微減傾向です。年間販売額は、平成9年から16年にかけて減少し、その後平成16年から19年にかけて再度増加に転じています。平成19年現在、従業者数は2,500人、事業所数は571件、年間販売額は358億7,900万円となっています。

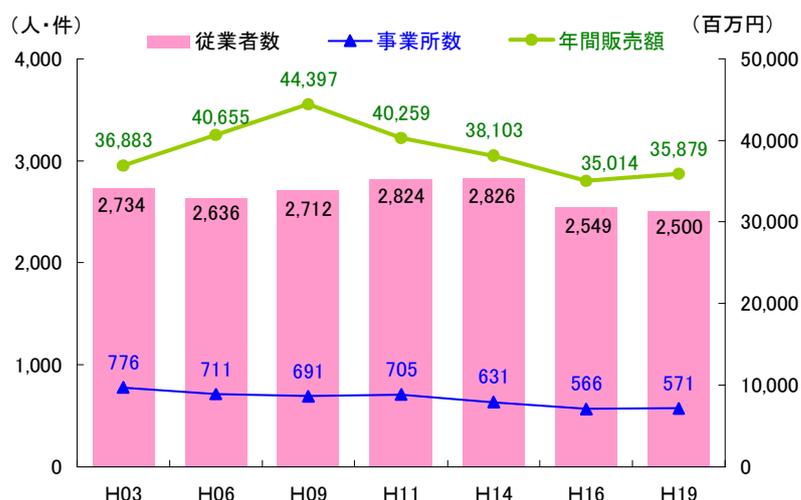


図 2-4-3 商業（小売業）指標の推移

資料：商業統計調査

平成3～19年の増減率を近隣市町と比較すると、阿賀野市は事業所数の減少率が他市町と同程度であるのに対し、従業者数の減少が目立つ状況となっています。売場面積(+30.9%)は、新潟市、新発田市の約半分程度の伸び率です。

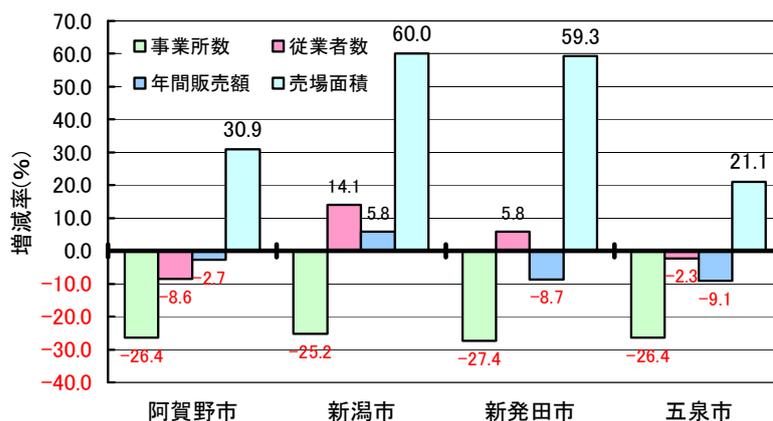


図 2-4-4 市町別商業（小売業）指標の増減率（H3～19年）

資料：商業統計調査

※近隣市町のうち阿賀町については、公表されていないため対象から除外した。

阿賀野市民の買物利用地についてみると、買回品については新潟市での利用が最も多い50.8%となっています。先述の「売場面積増加率」が高い新潟市及び新発田市での利用率が増加しています。

最寄品については、平成19年現在、阿賀野市内の利用率が68.6%と最も大きいものの、その比率は減少傾向となっています。

【買回品】
 呉服・寝具、高級衣料、服飾品、靴・カバン、時計・メガネ、カメラ、家庭電化製品、家具・インテリア、文具・書籍、レジャー・スポーツ用品、おもちゃ・楽器・コンパクトディスク、贈答品など

【最寄品】
 日用雑貨、生鮮食料品（肉・魚・野菜）、一般食料品など

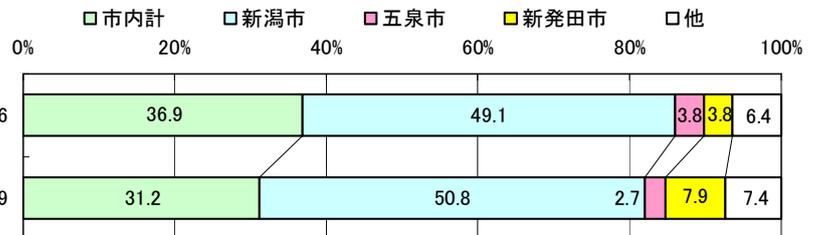


図 2-4-5 阿賀野市民の買物利用地（買回品）

資料：中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書

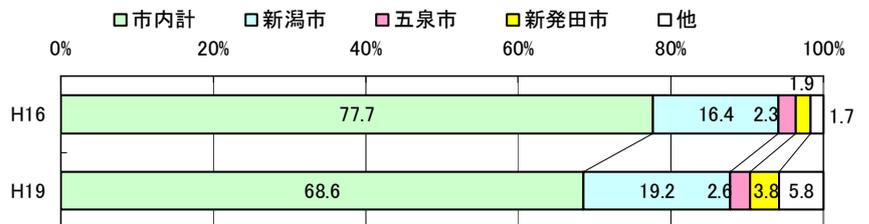


図 2-4-6 阿賀野市民の買物利用地（最寄品）

資料：中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書

最寄品の買物利用地をさらに詳細にみると、市内でも水原地区の比率が最も高く、次いで安田地区が続きますが、いずれも利用率が減少しています。

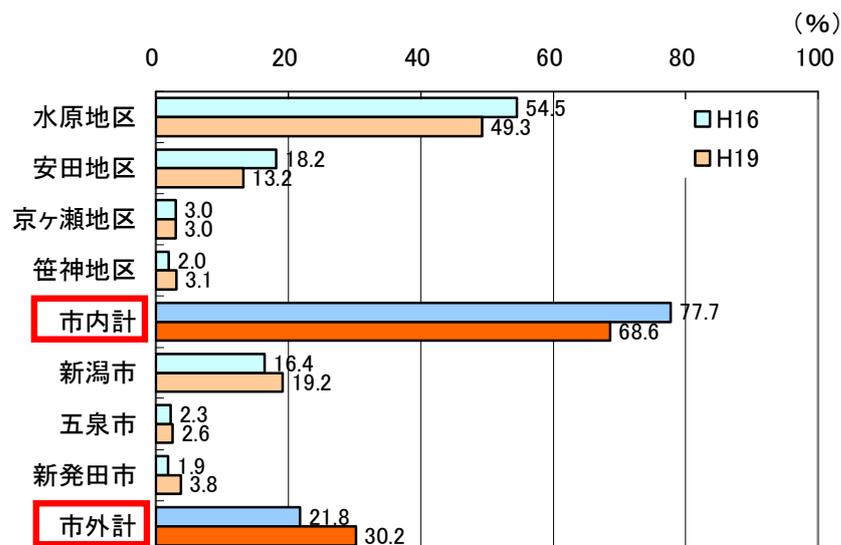


図 2-4-7 市内地区別買物利用地の推移（最寄品）

資料：中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書

(5) 観光

阿賀野市の観光入込み客数は、平成7年以降は減少傾向になっており、平成21年現在は144万8,000人となっています。

平成21年の入込み客の内訳は、県内客が119万人に対し県外客が25万7,000人で、全体の8割以上が県内からの来訪者となっています。

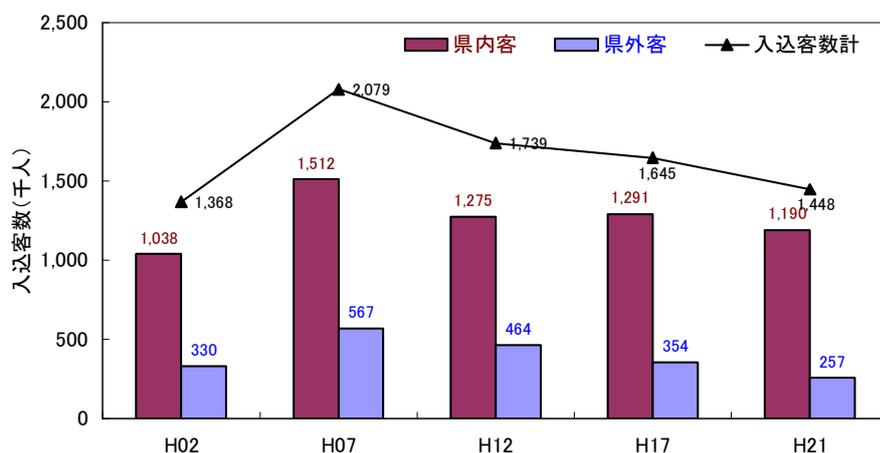


図 2-5-1 阿賀野市入込客数の推移

資料：新潟県観光動態の概要

近年の目的別入込み客数の推移をみると、平成21年現在、ゴルフ場・遊園地などが含まれる「その他レクリエーション施設」が38万6,000人と最も多く、次いで「自然景観」が33万4,000人、「温泉」が31万2,000人となっています。また平成16年以降は、「産業観光」が15万人超の入込み客数を維持しています。

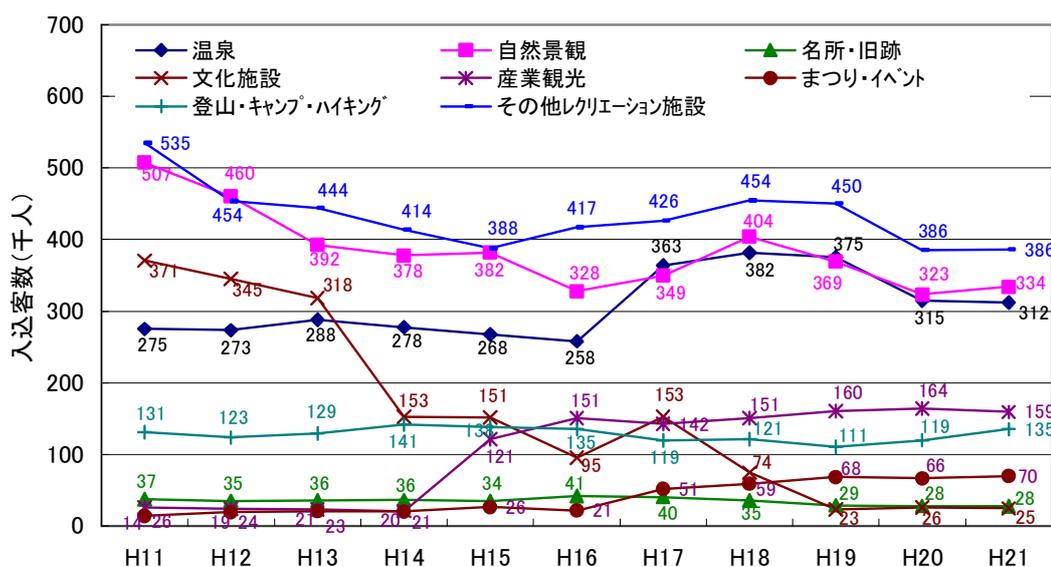


図 2-5-2 目的別入込客数の推移

資料：新潟県観光動態の概要

市内の主要な観光施設別入込み客数の推移をみると、平成 21 年現在「瓢湖水きん公園」が 31 万 1,000 人で最も多く、「サントピアワールド等」(19 万 2,000 人)、「五頭山麓うらの森」(15 万 9,000 人)、「村杉温泉」(11 万 7,000 人)が続きます。

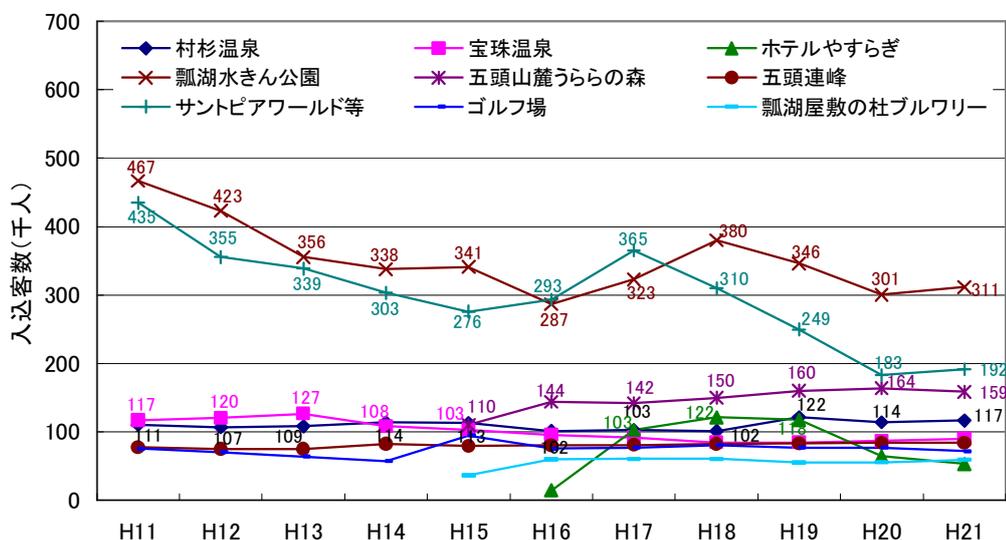


図 2-5-3 年間 5 万人以上入込客数のある施設別入込数の推移

資料：新潟県観光動態の概要

市内にある村杉温泉と近隣の主要温泉地の入込み客数の推移をみると、月岡温泉や岩室温泉で入込み客が減少傾向にあるのに対し、村杉温泉は微増の傾向にあることがわかります。

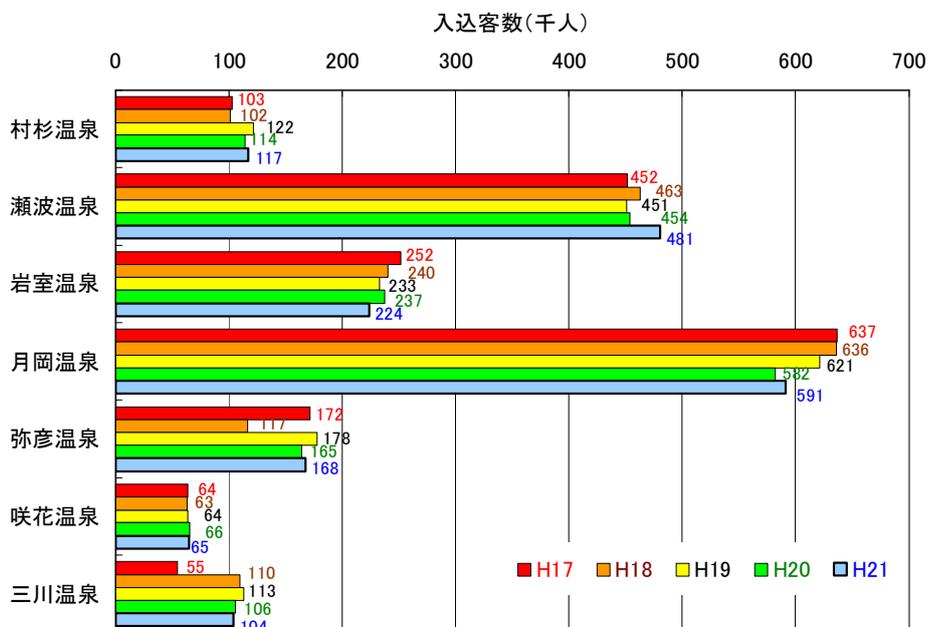


図 2-5-4 村杉温泉及び周辺の温泉における入込客数の推移

資料：新潟県観光動態の概要